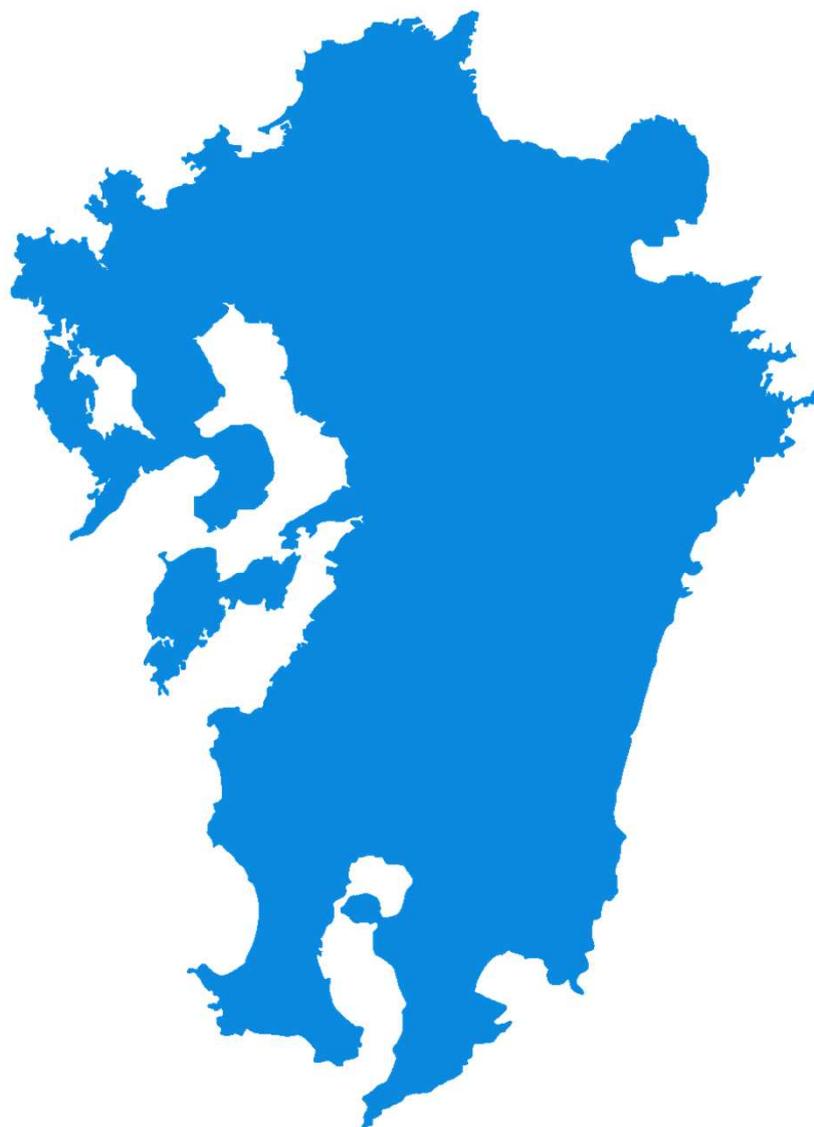


鹿屋体育大学大学院体育学研究科（修士課程）

体育学・スポーツ科学  
連携大学院教育プログラム概要



# I. 体育学・スポーツ科学 連携大学院教育プログラムとは？

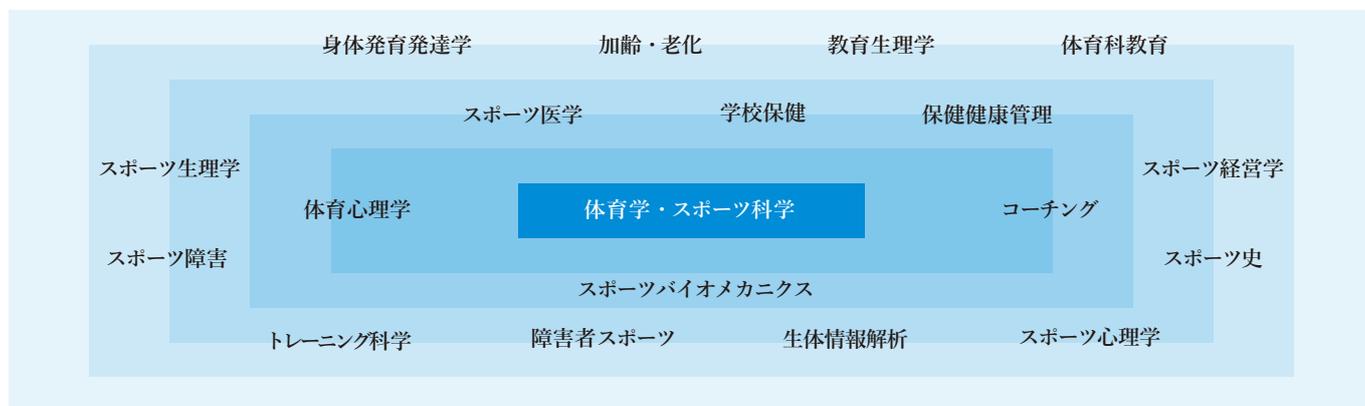
体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム（以下、連携大学院教育プログラム）では、我が国で唯一の国立4年制体育大学である鹿屋体育大学大学院の体育学研究科（修士課程）を中心として、九州地区の各大学の大学院教育学研究科と連携・協力して本学の修士課程の教育・研究指導を行うことで、複合領域である体育学・スポーツ科学についての専門的知識・技術の教授研究能力及び高度の専門性を要する職業に必要な能力を有する研究者や指導者を養成し、鹿屋体育大学大学院の修士（体育学）の学位取得を目指します。

## これまでの取り組み

本学では、概算要求事項として、平成25年度から平成28年度に「体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム」を実施しており、さらに平成29年度からは本プログラムを発展させた「九州地区の国立大学との連携による大学院博士後期課程における人材養成」事業を令和2年度まで実施する予定です。

本事業では、本学の第4期中期目標・中期計画での博士後期課程の定員増を見据えて九州の各国立大学及び各私立大学との連携拡充を通して、大学院体育学研究科博士後期課程の連携教育プログラムを実施するもので、現在鹿児島大学、熊本大学、宮崎大学と連携協定を締結し、連携教育プログラムを実施しています。

### ■体育学・スポーツ科学は下記の研究分野等からなる複合領域です



※日本学術振興会 科学研究費助成事業 細目表より一部抜粋

### ■博士後期課程での連携大学院教育プログラム実施状況

年度	内容	年度ごとの入学生の活動拠点
平成25年度	鹿児島大学、熊本大学と連携協定締結	
平成26年度	連携大学院教育プログラム開始	鹿屋体育大学：1名
平成27年度	熊本大学において学生受け入れ	鹿屋体育大学：2名 熊本大学：1名
平成28年度		鹿屋体育大学：1名
平成29年度	宮崎大学と連携協定締結 学位授与（鹿屋体育大学所属学生1名）	鹿屋体育大学：2名 熊本大学：1名
平成30年度	名城大学と連携協定に向けた協議実施 学位授与（鹿屋体育大学所属学生1名）	鹿屋体育大学：1名
令和元年度	名城大学と連携協定に向けた協議実施	宮崎大学：1名

## □ 修士課程連携の目的

本学の修士課程の目的である「スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における専門的知識・技術の教授研究能力及び高度の専門性を要する職業に必要な能力を有する研究者や指導者の人材養成」に寄与するためには、学際的・複合的かつ一貫した指導体制のもとでの体育学分野に特化した指導と体育・スポーツに関する大学院教育の拠点化が必要です。

複合領域としての体育学の学際性を踏まえた場合、一つの大学ではなく複数の大学に所属する様々な領域を専門とする教員が連携しながら教育・研究を進めていくことで、広範多岐にわたって実践的で高度な専門指導者の養成および知的財産の統合、体育学の専門教育の強化が可能になります。また、現職教員等の社会人再教育（リカレント）への対応としても大学間での広範囲な連携を目的としています。

## □ ニーズ

複合領域としての体育学の特性を考えたとき、広範多岐にわたって実践的で高度な体育の指導者の養成と、より学際性の広さにつながる学びの場も必要になってきます。そのためには、中・高等教育における体育学研究の受け皿の準備が急務であると考えられます。また、国立大学に求められている知識集約型社会のため、体育学においても知的財産の統合を行い、「知（身体知）」の集約という機能を強化していく必要があり、社会人の学びの推進のためのリカレント教育の充実にとっては、地域に根ざした教育の可能性を広めることが重要になっています。

## □ キャリアパス

連携することで、ひとつの大学では得られない複合領域である体育学に関する幅広い知識・技術を獲得し、優れた教授研究能力を有する研究者や指導者等の養成を行うことができます。その際、連携大学の特色に合わせたキャリア形成も可能になります。具体的には、教育学部等との連携を通じて、より専門性の高い保健体育教師や発育発達（小中高）に対応可能な保健体育教師の養成も考えられます。また、スポーツパフォーマンスに関しては、平成22年に国が示した「スポーツ立国戦略」を推進するうえで中心的な役割を果たすことが期待されるスポーツコーディネーターやクラブチームなどの指導者の養成や、スポーツのマネジメントやイベントに関する企業等で活躍する人材の養成にも繋がります。さらに、健康分野における指導者に関しては運動・スポーツへ特化したトレーナーの養成、体育学の研究をさらに進めていくために大学院（博士課程）への進学も提供できると考えています。

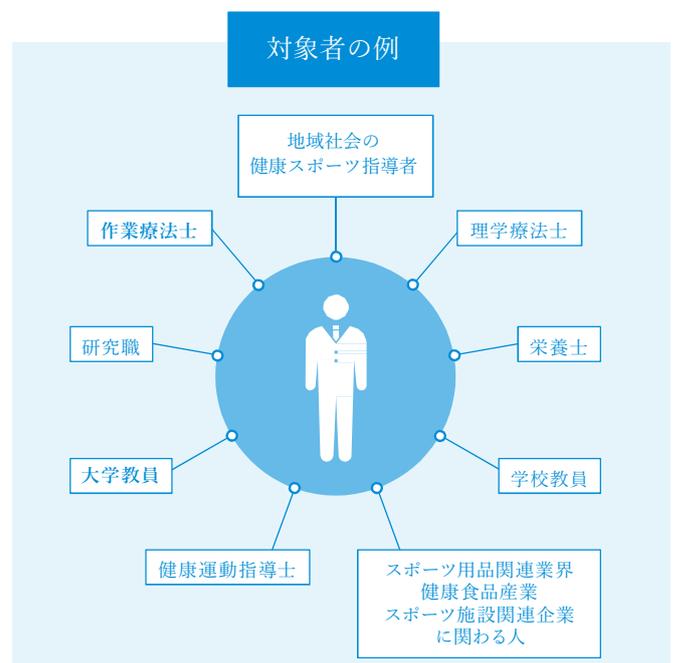
## □ 対象となる方

本学及び連携協定校に通学が可能な修士課程への進学を希望している学部4年生および体育・スポーツ・健康に関わる仕事に従事している現職の教員、行政職員、運動指導者・支援者等を対象としています。

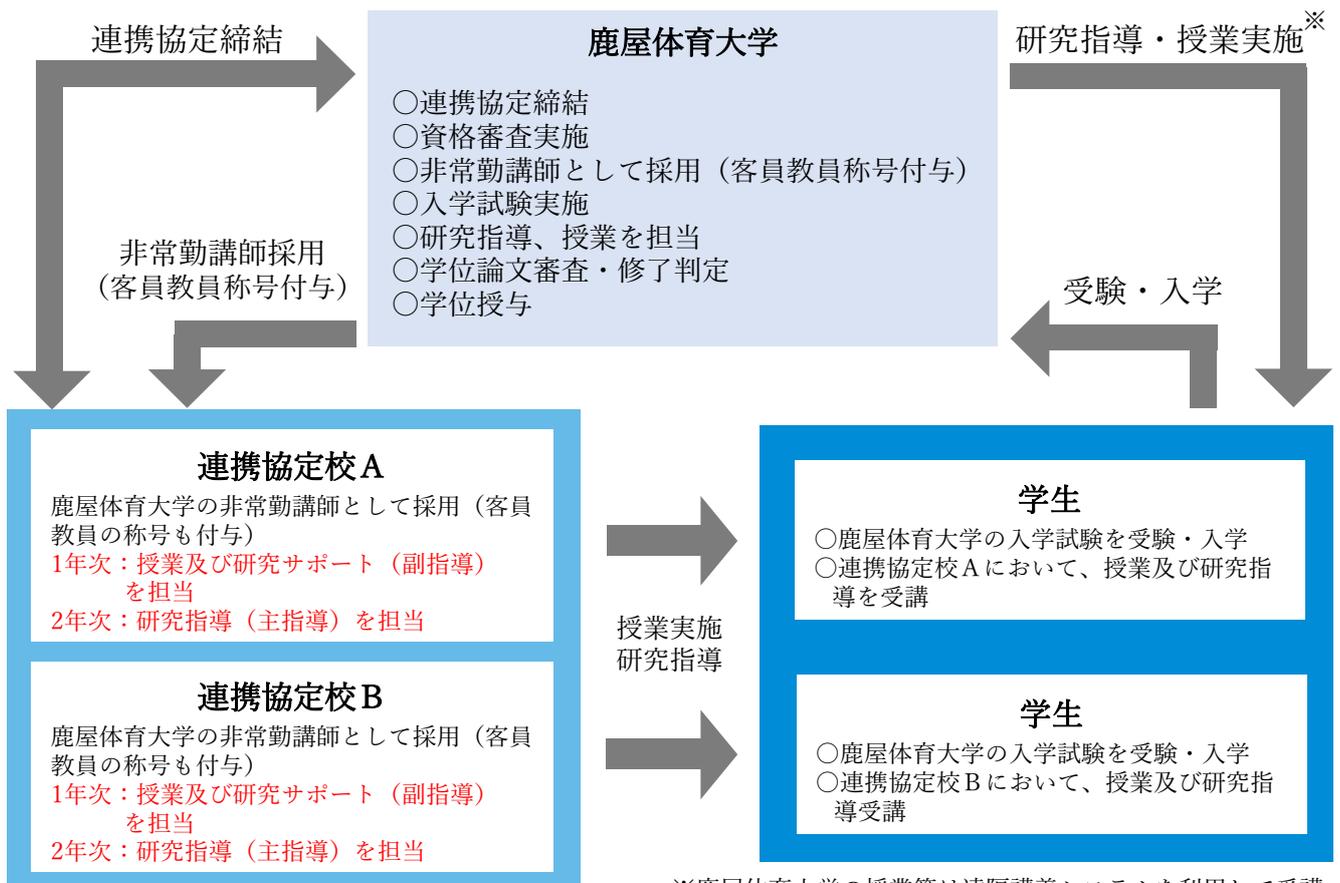
※学士の学位を有する方、同等の業績と認められた方

将来、体育・スポーツ・健康の  
研究者、指導者、支援者を目指している  
学部4年生

現在、体育・スポーツ・健康の  
研究者、指導者、支援者として働いていてさら  
に高度な専門的知識を学びたい社会人



## □ 修士課程における他大学との連携の仕組み



※鹿屋体育大学の授業等は遠隔講義システムを利用して受講

## 他大学との連携における基本方針

本連携を実施するにあたり、他大学の教員に本学の指導教員・副指導教員としての資格審査を行い、本学非常勤講師として採用（併せて客員教員として称号付与）したうえで、**1年次に一部の授業及び研究サポート（副指導）**を、**2年次に研究指導（主指導）**を行っていただくことを想定しております。

## 論文指導研究に関する方針

- 連携大学と連携協定を締結し、鹿屋体育大学において指導教員、副指導教員の資格審査を実施・資格認定
- 鹿屋体育大学非常勤講師として採用（併せて客員教員の称号付与）
- 履修学生は、鹿屋体育大学修士課程の入学試験を経て入学し、連携協定校において、遠隔講義システムを利用して授業及び論文指導を受ける（連携協定校の教員も一部の連携科目を担当）
- 論文指導は、1年次は鹿屋体育大学の教員が主指導、副指導を実施し、2年次は連携協定校の教員が主指導、鹿屋体育大学の教員が副指導を実施する。
- 学位論文審査は、鹿屋体育大学の規則に基づき実施し、**連携協定校の教員も主査として参画**
- 修了判定は鹿屋体育大学の規則に基づき実施し、鹿屋体育大学の学位（修士(体育学)）を授与

## 修士課程における連携までの手続き

対応	内容
鹿屋体育大学	連携予定大学と連携に向けた協議
鹿屋体育大学	連携協定書の作成
鹿屋体育大学 連携予定大学	大学内において連携及び連携協定について審議
鹿屋体育大学 連携予定大学	連携協定の締結
鹿屋体育大学	連携予定大学の担当教員資格審査を実施
鹿屋体育大学	鹿屋体育大学非常勤講師の発令（毎年度実施） 鹿屋体育大学客員教員の称号付与（毎年度実施）

## □ 連携大学院教育プログラムの特色

### 教育体制の特色

連携大学院教育プログラムでは、内容の複合性と教育・研究指導の一貫性の両方を兼ね備えた教育体制を提供します！

### 研究指導

複数の大学に所属する専門分野の異なった教員が指導教員(1人)と副指導教員(2人以内)となり、学生に対する教育・研究指導を行います。これにより、幅広い領域を包括した指導体制が構築され、充実した研究活動を実現します。

### 1年目の指導体制

連携協定校の教員  
(鹿屋体育大学で  
非常勤講師として  
採用)



授業を担当  
研究サポート  
(副指導)

授業  
研究サポート  
(副指導)  
※対面



授業  
論文指導  
※遠隔

鹿屋体育大学教員



主指導、副指導  
授業を担当

■鹿屋体育大学修士課程学生として入学し、連携協定校において遠隔講義システムを利用して授業を履修します。(連携協定校の教員も一部の科目を担当)

■論文指導は、1年目は鹿屋体育大学の教員が行います。

### 2年目の指導体制 (連携大学院方式)

連携協定校の教員  
(鹿屋体育大学で  
非常勤講師として  
採用)



主指導を担当

論文指導  
※対面  
連携指導委託



論文指導  
※遠隔

鹿屋体育大学教員



副指導を担当

■組織的な研究指導委託体制として、主指導教員を連携協定校の教員に変更し、論文指導を実施します。また、鹿屋体育大学教員は副指導教員として遠隔にて論文指導を実施します。

■学位論文審査は、連携協定校の主指導教員を加えた審査体制で実施します。

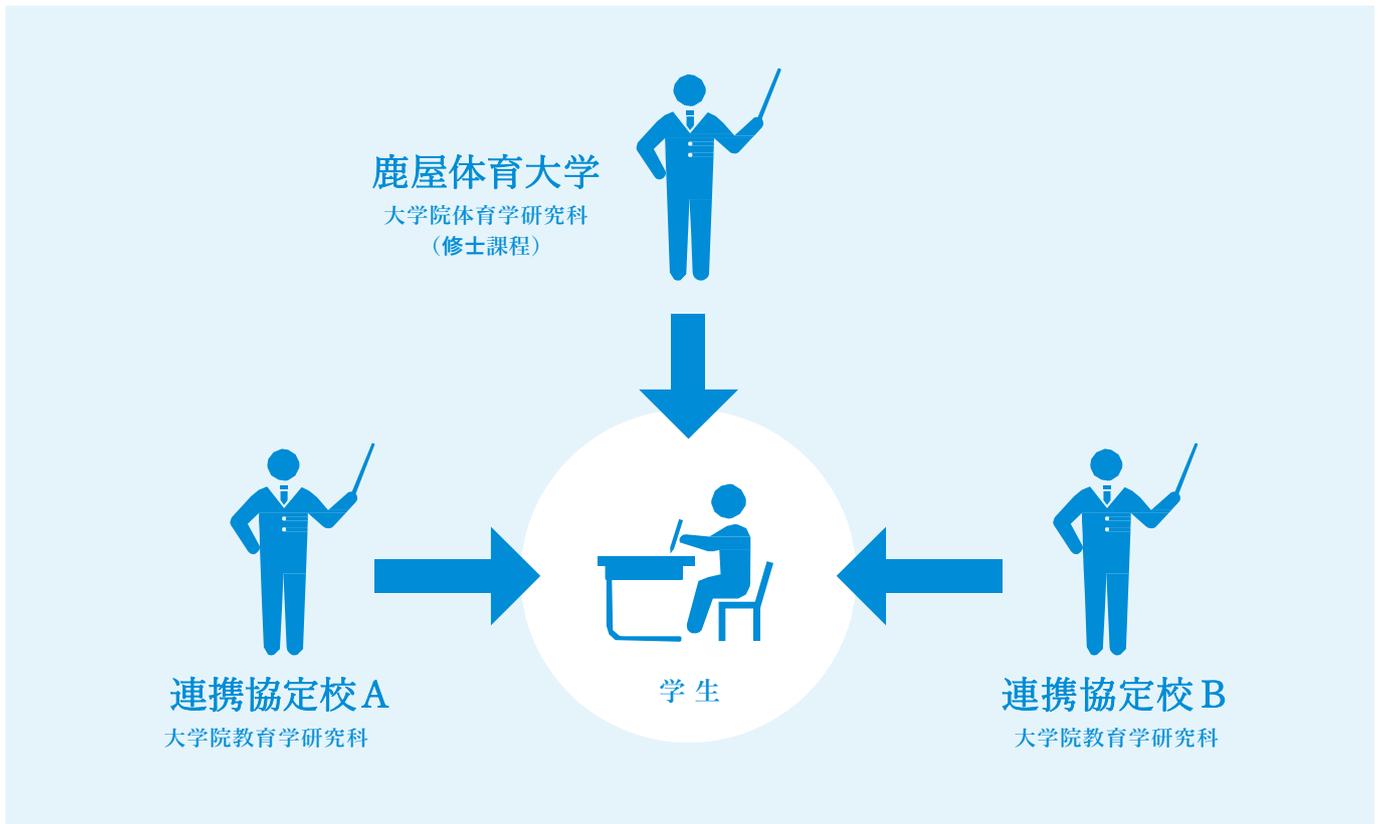
■修了判定は鹿屋体育大学の規則に基づき実施し、鹿屋体育大学の学位(修士(体育))が授与されます。

## 学生の 身分・所属

各大学において特別な身分<sup>注3)</sup>を有することによって、鹿屋体育大学の大学院生でありながら、連携協定校に研究活動の基盤をおくことができます。これにより、連携協定校の学部を卒業後にそのまま大学に残りながら、鹿屋体育大学大学院体育学研究科に在籍できるようになります。したがって連携協定校周辺に住んでいる方も、鹿屋体育大学大学院の修士(体育学)の学位取得を目指すことが可能となります。注3) 連携協定校では特別研究学生等の身分を付与される

## 講義方法

連携大学院教育プログラムでは、異なる分野を専門とする大学の教員が担当教員となり、体育学・スポーツ科学についての幅広い専門的知識の養成を行うためにオムニバス形式の授業を取り入れています。



## 遠隔授業

連携大学院教育プログラムでは、複数の大学に所属する各領域の教員が授業を行うため各大学を遠隔講義システムで結び、パソコンやタブレット端末を使って授業が行われます。



遠隔講義システムを使用した授業

# II. 鹿屋体育大学 大学院

## 体育学研究科（修士課程）

この連携大学院教育プログラムは、従来の鹿屋体育大学大学院体育学研究科（修士課程）を基礎に成り立っています。

そのため、連携大学院教育プログラムを利用する学生は鹿屋体育大学大学院体育学研究科（修士課程）に在籍することになります。教育課程は、共通領域、スポーツ総合科学領域、スポーツ文化・社会科学領域、スポーツ生命科学領域及び課題研究領域の5つの領域により編成されています。

### 大学院体育学研究科（修士課程）の目的

鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程体育学専攻は、学部での教育研究の成果を基盤として、スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における専門的知識・技術の教授研究能力及び高度の専門性を要する職業に必要な能力を有する研究者や指導者の養成を目的としています。

さらに、社会人の再教育、海外の留学生の受入れによる教育研究の国際交流を図り、これらを通じて国内外の体育・スポーツ情報のネットワーク構築をめざします。

### 授業科目の区分および内容

修士課程では、体育学・スポーツ科学に関する高度な知識習得を目指し、以下の5つの領域から授業科目を編成しています。

区分	科目群	領域	内容
共通	共通科目	共通	スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における教育研究能力及び高度の専門性を要する職業等に必要基礎的能力を養うための科目
専門	基礎科目 応用科目	スポーツ 総合科学	スポーツ・武道及び体育・健康づくりの実践的側面に関する専門的知識・研究法を追究するための科目
	基礎科目 応用科目	スポーツ 文化・社会科学	スポーツ・武道及び体育・健康づくりの文化的、社会的側面に関する専門的知識・研究法を追究するための科目
	基礎科目 応用科目	スポーツ 生命科学	スポーツ・身体活動への生体応答メカニズムに関する専門的知識・研究法を追究するための科目
課題研究	課題研究 科目	課題研究	スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における専門的知識・研究法を活かし、修士学位論文としてまとめるための科目

### 修了要件<sup>注)</sup>

鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程体育学専攻を修了するための要件は、標準修業年限以上在学し、所定の単位を30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受け学位論文の審査及び最終試験に合格することです。なお、課程修了の可否については、学位論文審査委員会の報告に基づき、研究科委員会が審議決定し、学長が認定することになっています。

### 学位の授与<sup>注)</sup>

上記の修了要件を満たし、鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程を修了した者には、鹿屋体育大学から「修士（体育学）」の学位が授与されます。



## 修了要件に応じた開設授業科目（共通科目）

### ■ 共通科目 【必修科目：6単位（4科目）】

授業科目名	単位数		備考
	必修	選択	
スポーツ科学リテラシー特講	2		
スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	2		
スポーツ科学セミナー	1		
スポーツ科学英語特講Ⅰ	1		集中講義で実施
インストラクションデザイン演習		1	集中講義で実施
キャリアデザイン演習		1	集中講義で実施

## 修了要件に応じた開設授業科目（基礎科目）

### ■ 基礎科目 【選択必修科目：6単位（3科目）】

授業科目名	単位数		備考
	必修	選択	
トレーニング科学特講【TSC】		2	
コーチング学特講【TSC】		2	
スポーツ史・運動文化論特講【TSC】		2	
生涯スポーツ学特講【TSC】		2	
スポーツ社会学特講【TSC】		2	
スポーツマネジメント論特講【TSC】		2	
スポーツ心理学特講【TSC】		2	
体力科学特講【TSC】		2	
スポーツバイオメカニクス特講【TSC】		2	
スポーツ栄養学特講【TSC】		2	
身体教育特講Ⅰ【KR】 ※仮称		2	連携科目 集中講義で実施
身体教育特講Ⅱ【KR】 ※仮称		2	連携科目 連携協定校で実施

## 修了要件に応じた開設授業科目（応用科目）

### ■ 応用科目 【選択必修科目：6単位（3科目）】

授業科目名	単位数		備考
	必修	選択	
トレーニング科学特講演習【TSC】		2	
コーチング学特講演習【TSC】		2	
スポーツ史・運動文化論特講演習【TSC】		2	
生涯スポーツ学特講演習【TSC】		2	
スポーツ社会学特講演習【TSC】		2	
スポーツマネジメント論特講演習【TSC】		2	
スポーツ心理学特講演習【TSC】		2	
体力科学特講演習【TSC】		2	
スポーツバイオメカニクス特講演習【TSC】		2	
スポーツ栄養学特講演習【TSC】		2	
身体教育特講演習Ⅰ【KR】 ※仮称		2	連携科目 集中講義で実施
身体教育特講演習Ⅱ【KR】 ※仮称		2	連携科目 連携協定校で実施

## 修了要件に応じた開設授業科目（課題研究科目）

### ■ 課題研究科目 【必修科目：4単位（1科目）】

授業科目名	単位数	
	必修	選択
課題研究	4	

## 開設授業科目の修了要件

授業科目区分	単位数（科目数）		
	必修	選択必修	選択
共通科目	6（4）		
基礎科目		6（3）	8（4）
応用科目		6（3）	
課題研究科目	4（1）		
合計	10（5）	12（6）	8（4）